



多職種伴走型ケアで 本人の「やりたい」を形に



高齢者介護施設きらめきでは、全拠点で実践している取り組みをスタッフ同士が共有し、福祉業態のサービスの質の向上と根拠あるよりよい介護実践につながることを目的に、毎年事例研究・業務改善活動に取り組んでいます。今回は「生協10の基本ケア」理念の「夢中になれることをする」「ケア会議をする」という2つの視点から、取り組んだ研究をご紹介します。

概要

脳梗塞の後遺症もあり、度重なる転倒で外出に消極的なAさん。以前は活動的で多趣味でした。Aさんの情報やアンケートから、「何かしようとする和家人や職員に迷惑をかける」という思いが活動やリハビリの意欲を妨げる要因となっていることが分かりました。

目標は「生きがい」を取り戻し、住み慣れた自宅生活を継続する！

「夢中になれること」と「対話」を軸にAさんの生活歴や趣味をリハビリや活動に柔軟に取り入れ、単に心身機能を回復させるだけでなく、自発的な意欲を引き出す支援をめざしました。

主な取り組みと結果

デイサービスでの盆栽の手入れ

「盆栽」に対する思い入れは強いもののこれまで手入れができなかった思いを汲み、主治医やケアマネジャーと連携し、

デイサービスで盆栽の手入れをしてもらいました。腕はいつもより上がり、表情豊かに盆栽を語られる姿が見られました。

将棋での「頼まれごと」としての声かけ

かつて職場で将棋を楽しんでいたAさんに「将棋を教えてください」と「頼まれる・教える側」として声をかけたところ、麻痺の右手に左手を添え対局する姿が見られました。

「声かけ・表情ノート」の作成と多職種連携

どのような声かけをすればAさんの意欲やモチベーションが上がるのかを記録し、チーム内で効果的な誘い方を共有し、支援の方向性を統一しました。

また訪問リハビリと連携し運動も継続したところ、歩行距離の大幅な伸長や要介護度3から2への改善が見られました。

諦めていたことを続けられる形に変え、小さな役割と成功体験を積み重ねたこと、そして「ケア会議」を通じて専門職が共通の視点で関わることで心身共に改善が見られ、Aさんの「生きがい」の再構築にもつながったのだと思います。

これからもさまざまな職種が連携して、本人の「やりたい」を形にする関わりを続けていきます。

Profile

県民せいきょう 福祉事業部

受付時間／月～金 9:00～17:00(祝日含む)
TEL.0776-52-8466

高齢者介護きらめき
事例研究・業務改善への
取り組み



生協10の
基本ケアに
ついてはこちら

